

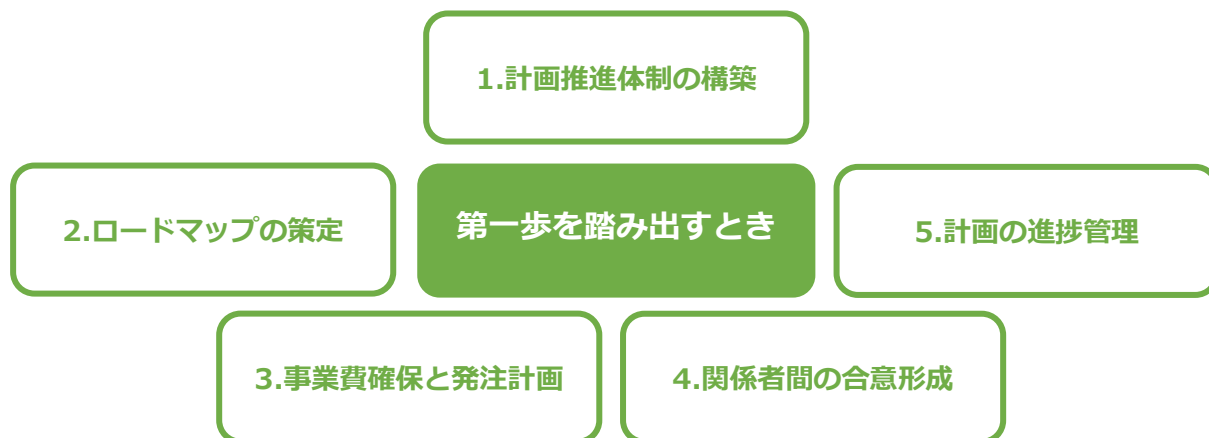
# 5

## 第 5 章 計画の実現に向けた課題整理

---

## **(1) 実現に向けた課題と対応**

前章までの計画を実行に移すために、下記 5 項目が重要かつ早急な課題であるとする。



## 1. 計画推進体制の構築

計画を長期に渡り持続的に推進し、その先の更なる観光振興の発展を目指すためには、市民、行政、各種団体、専門家、民間企業が一体となった推進体制を築き、それぞれの役割を果たしつつも相互の連携を密にした有機的な体制が必要と考える。観光振興においてはソフト、ハードの両輪をバランスよく、ゆがみなく、滞ることなく回し続けることが重要であり、広範囲な関係者がチームとなり知見を結集することが肝要となる。

また、推進体制を持続的に維持、強化するためには、市内外に向けて計画の内容と実行の過程を発信し、計画への関心を幅広く持ち続けてもらうことが欠かせない。

本計画の検討委員会等の運営を今後も継続し様々な方面からの知見を求めつつ、秋吉台地域ならではの観光振興を実行、発信していくことが、本計画への関心を誘発し持続的に体制を維持する鍵となる。実行過程、進捗状況をわかりやすく市内外に向けて発信し、参加意識の向上と関心の継続を誘発する工夫が求められる。

## 2. ロードマップの策定

計画の具現化に向けては中長期的なロードマップの策定が欠かせない。ロードマップは将来事業、実行手順、ホールドポイント等を押さえた計画実行の要となる。

本計画においては、施設整備の前提として観光振興に向けた観点が重要であり、ソフト、ハードの両輪を織り込んだ財政計画、発注及び許認可手続きプロセスを整理した各事業の期間を明確に捉えたロードマップの策定が必須と考える。

## 3. 事業費確保と発注計画

市観光事業特別会計の積立金では投資財源の限界があると同時に、特別会計積立金、一般財源の拠出においては、各種事業毎に適切に区分し財源を選択していくことが求められる。

必要な事業の実施にあたっては、各種補助金を確保することが急務であり、広範囲な関係者チームが一丸となって取り組むべき課題に他ならない。

本計画の実行に向けて各年度の予算を適切に確保していくと同時に、将来の個別の実施計画に基づき、先を見越した財源の確保が重要である。

複数の事業及び工事発注が並走する時期においては、様々な課題に対して臨戦即応体制が求められる。多方面における知見を得るために、外部の人材も取り入れながら、計画実行力の強化を図る必要がある。また、本計画は選択と集中を基本的な考え方に据えると共に、スピード感のある施策の実行が重要である。従来方式に加えて、新たな計画実行方式や、設計施工方式等の多様な発注方式を選択しながら、遅滞なく計画を推進することが必要となる。

#### **4. 関係者間の合意形成**

計画を具体的に進めて行くためには、秋吉台地域における公共・民間それぞれの所有する施設及び事業の整理と、連携強化が欠かせない。また、美祢市内、周辺自治体、県との事業連携も大切な鍵となる。市民、行政、各種団体が一丸となり合意形成を一早く行い、事業の実行に移すことが求められる。

秋吉台地域に暮らし、生計を営む市民参加と相互連携無しには、長期的な観光振興は成し得ない。公共と民間の役割分担を整理しつつ、総論賛成各論反対とならない合意形成に向けて、きめ細かな情報発信と、相互連携を深める推進体制が必要である。

#### **5. 計画の進捗管理**

計画の推進に当たっては、策定した計画(PLAN)に基づき各施策・事業を実施(DO)した後、検証(CHECK)を行い、各施策・事業の課題等の抽出・分析を行ったうえで、計画の改善・見直し(ACTION)を行う、PDCAサイクルの構築が必要である。目標の達成状況の評価にあたっては、数値目標による定量的な評価に留まらず、関連する各事業の実施状況や課題の整理などを踏まえた総合的な評価が求められる。PDCAサイクルによる評価により、半期、四半期など適正な期間を定め、短期的な評価を行うとともに、3～5年の中期的な評価を行い、本計画の改善・見直しをすることが重要となる。